

2024 フクシマ連帯キャラバン報告書

フクシマ連帯キャラバンに参加し、東海第二原発周辺 30 キロ圏内 16 自治体への要請行動を行ないました。どの自治体も原発再稼働には曖昧で当たり障りない事務的な対応ばかりでしたが、城里町の上遠野町長だけは選挙でも原発再稼働反対派である事を掲げ当選した方でもあり、私達キャラバン隊と心一つとなり前向きな意見交換が出来ました。その話の中で私が一番印象に残ったのが選挙に行く事への重要性についてでした。民意は表す一番の方法は選挙である。候補者を吟味して選ぶ必要性とその方法についてアドバイスを頂きました。まず候補者がどのような政策、考えも持っているか、過去にどのような活動したか、議会でどのような質問をしたのかを調べて吟味する必要があるとの事でした。日本は民主主義国家ですから、民意は選挙で見せて行かなければなりません。選挙に行くことはもちろんの事、候補者選びの重要性を改めて学ぶいい機会になりました。全港湾の仲間たちには選挙に参加する事で一緒に戦って行きたいと思いました。

今回初めてフクシマ連帯キャラバンに参加して、日本はどんどん原発再稼働の方向に向かって行ってしまっていると感じました。ドイツでは福島事故から国が脱原発を掲げ、脱原発をしてすでに3年が経ったそうです。残念ながら日本では原発事故から13年が経った今、ドイツとは逆の方向に歩きだしてしまっています。我々、フクシマ連帯キャラバン隊は今まで以上に団結し、脱原発運動の波を大きくして行かなければなりません。皆さんで力を合わせて頑張ってください。

全港湾 東方地方ひたち支部青年女性部
副部長 大亀 慶太